

## 児童生徒の「主体的な学び」を促す授業実践

### 1 基本情報

◇各教科等 作業学習（農業）

◇学部・学年 中学部 第1学年

◇単元名 「秋野菜・花の栽培」

◇単元の目標 ○働くことに喜びをもち、すすんで作業に取り組むことができる。

○作業学習を理解し、主体的に最後まで取り組むことができる。

○作業に使う道具を正しく安全に正しく扱い、自ら適切な管理や手入れを行うことができる。

○役割を理解し、仲間に働きかけながら協力して作業に取り組むことができる。

◇付けたい力

○見通しをもち手順を理解し、すすんで取り組む姿。

○作業の意味を理解し、主体的に取り組む姿。

○仲間に働きかけながら、協力して取り組む姿。

◇本時の目標 手順を理解し、協力して土作りを行うことができる。

◇生徒の実態

農業作業1班は、Aの言動に左右され、他の生徒が刺激を受け不安定さが波及することがある。草抜きや、土を耕す作業など、単純くりかえしで、ゴールの見えにくい作業は、全員苦手だが、特にAのモチベーションがあがらないと、全体の意欲も低下し集中力が下がる。作業の意味がわかり、見通しを持つことができれば、互いを意識し、声をかけあいながら協力できる生徒たちではある。

### 2 期待する児童生徒の姿

単純繰り返しの作業であっても、作業の意味がわかり、目指すゴールの姿を明確に示せば、作業の意図を理解して考えて取り組む姿を期待する。AやDの引っ張られ、他の生徒も作業に意欲を示し、自分の役割を理解し、ゴールを見通し、仲間と声を掛け合いながら、作業を行うことを期待する。

### 3 指導者が捉えた児童生徒の「主体的な学び」

土を耕すという、単純作業ではあるが、なぜ土を耕さなければならないか、大根のペーパーサートを使って実際の畝を想定して、耕す理由について学習を行ってきた。さらに、どこまで耕すかという判断を促すために、支柱で土を刺し、印まで入るか、という支援具を利用した。

それにより、今までは耕す作業で疲れを見せ、途中で作業の手が止まったり、集団から離れたりしていた生徒が、最後まで作業を継続し、さらに、支柱の棒を自分からつきさし、深さが不十分であれば、仲間に働きかけて耕すように声をかける場面があった。何より、いつもの実態からみて、最後まで根気よく耕す作業を、目的をもって行うことができたことに、主体的な学びの姿を見た。

また前時に後ろにバックしながら目標のプラカードの数字を目指して後ろにバックしながら耕すことを会得した生徒は、自信をもって、「1から1よね」という言葉も発し、手順を理解して意欲的に取り組もうとする姿を見せてくれた。

ふるいの作業においても、相手の動きを見ながら自分から働きかけてふるいを動かそうとする姿も見られた。

ただ、せっかく耕した土だが、作業直後は柔らかくなっていたものの、土の悪さにより、数日たつと固い土に戻っていた。それにより、大根は前年度と同じように太くは育っていない様子。あの時ががんばったから、太い大根ができた喜びを味わえると、さらに次の作業への汎化につながるのだが、残念だ。これを土壤改良につなげていきたい。